

大腸がん検診及び精密検査受診が がん医療費に与える影響

工藤 孝典¹⁾、鈴木 祥高¹⁾、
小川 俊夫²⁾、祖父江 友孝³⁾

1) 全国健康保険協会 青森支部

2) 摂南大学 農学部 食品栄養学科 公衆衛生学教室 教授

3) 大阪大学 大学院 医学系研究科 社会医学講座 環境医学 教授

【背景・目的】

- 協会けんぽでは、五大がん（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん）検診を、生活習慣病予防健診受診者に対して提供しているが、その実態把握や精度管理はあまり実施していない。
- がん検診及びがん精密検査（以下、精検）受診により、がんの早期発見・早期治療が実現できると言われているが、その効果については十分に検討されていない。

- 国立がん研究センターの公表資料によると、青森県は2020年のがんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）が87.6となり、2004年から17年連続で全国ワースト。部位別にみても、大腸がんの同死亡率は13.4となり、15年連続で全国ワーストという結果となった。大腸がんの死亡率改善に向けた分析や取組が必要とされている。
- 本研究は、協会けんぽ青森支部被保険者の大腸がん新規患者のうち、大腸がん治療前のがん検診及び精検受診によるがん医療費への影響を分析し、がん検診及び精検の効果について検討することを目的として実施する。

【方法】

I. がん患者とがん精密検査受診者の抽出

- 協会けんぽ青森支部被保険者の2013年から2020年の8年間のレセプトより、先行研究※で開発したがん患者抽出手法を用いて大腸がん新規患者と精検受診者を抽出した。

※ Ogawa T et al. Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Global Oncology. 2023 doi: 10.1200/GO.22.00222.

- 大腸がん治療開始より12カ月以内のがん検診受診有無を推定し、大腸がん新規患者を「検診受診群」と「検診非受診群」の2群に区分した。

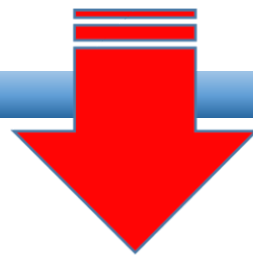
【参考】 年度別 大腸がん検診受診者数（協会けんぽ青森支部 被保険者）

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
81,274人	85,885人	91,037人	96,105人	102,020人	107,114人	111,937人	113,469人

II. がん医療費の比較

- 「検診受診群」と「検診非受診群」両群の大腸がん治療開始から1年間のがん治療にかかる平均点数を試算し、t検定を用いた比較分析を実施した。
- 「検診受診群」を、陽性判定後6カ月以内の精検受診の「精検早期群」と6～12カ月の「精検遅れ群」の2群に区分した。「精検早期群」と「精検遅れ群」両群でも1年間の平均点数についてt検定を用いた比較分析を実施した。
- 本研究の分析にはSPSS ver.26を用い、t検定の有意水準は5%とした。

【結果】



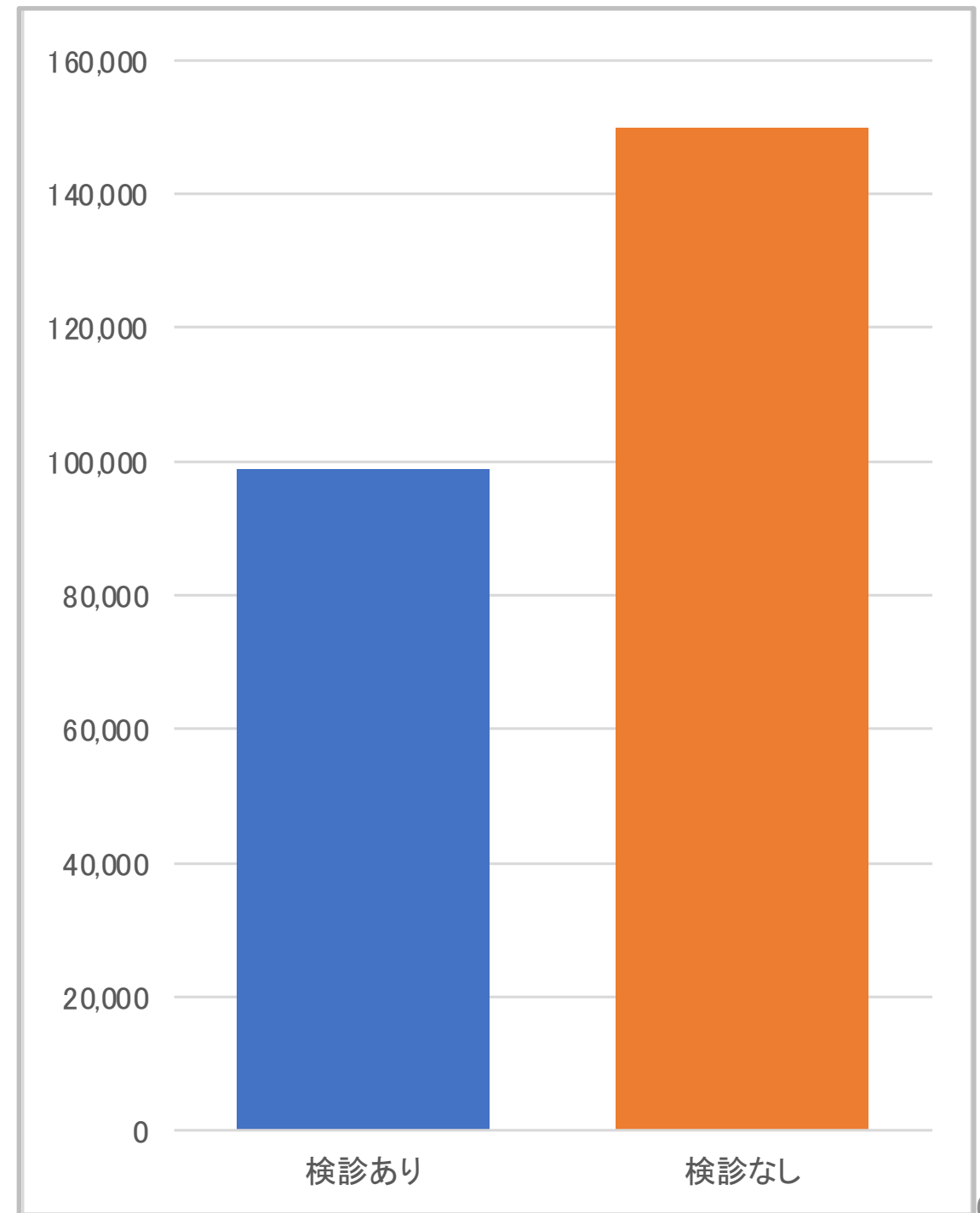
- 分析対象の大腸がん新規患者は3,240人で、うち検診受診群は865人、検診非受診群は2,375人と推定された。
- 検診の陽性判定後の精検受診者は658人で、うち精検早期群が563人、精検遅れ群が95人と推定された。

A

大腸がん患者・検診発見例と検診非発見例の 初年度点数比較

- 検診受診群より検診非受診群で治療開始から1年間の平均点数は高く、両群間に有意差がみられた。(p=0.000)

	人数	初年度点数	p値
検診あり	865	98,856	0.000
検診なし	2,375	149,960	



大腸がん患者
3,240人
(平均年齢 60.2歳)

検診非受診群
2,375人
(平均年齢 60.9歳)

検診受診群
865人
(平均年齢 58.2歳)

検診陰性等群
140人

検診陽性群
725人

精検早期群
563人
(平均年齢 57.9歳)

精検遅れ群
95人
(平均年齢 58.6歳)

精検なし群
67人
(平均年齢 58.9歳)

A

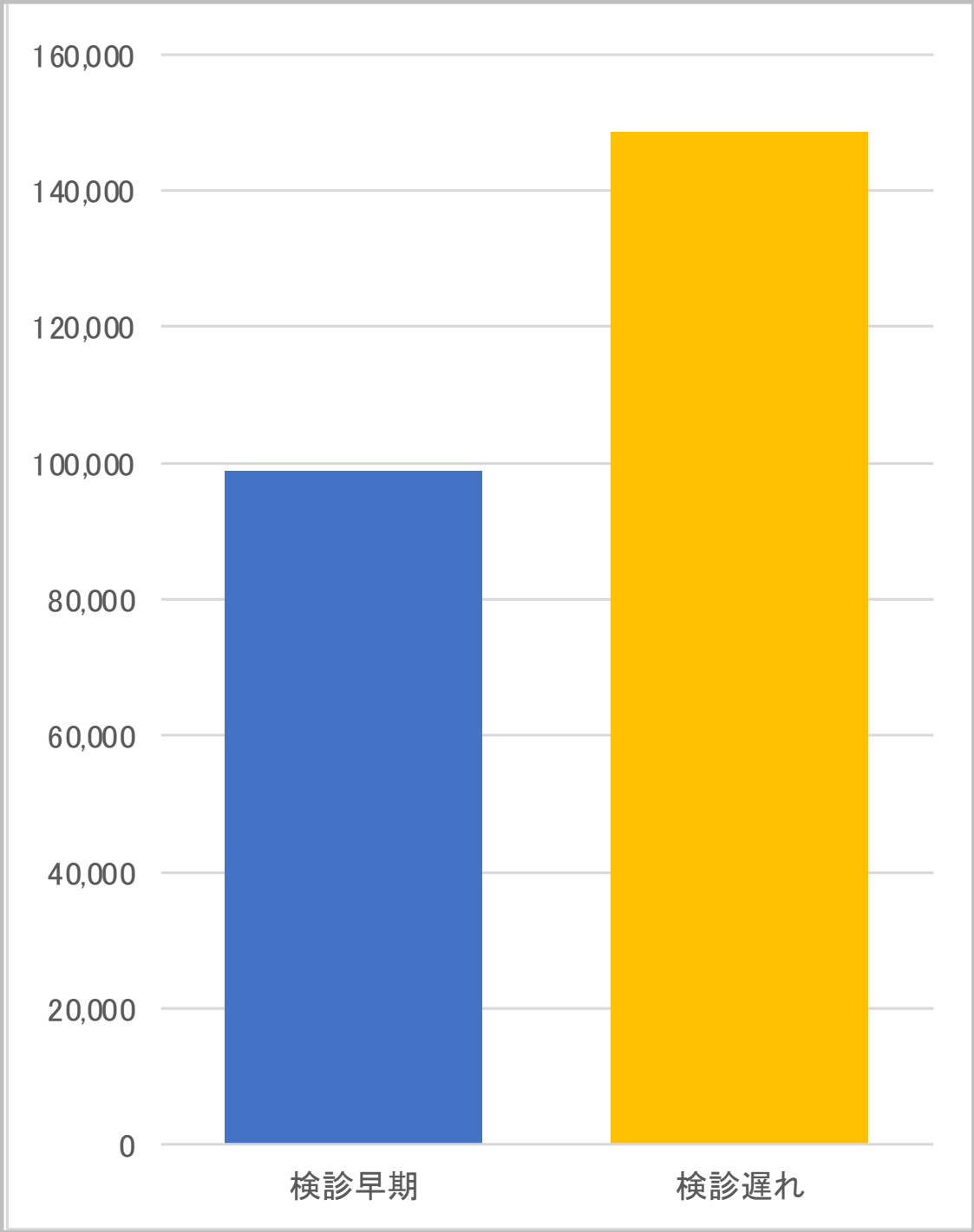
B

B

大腸がん患者・検診陽性後の精検早期と精検遅れの初年度点数比較

- 精検早期群より精検遅れ群で治療開始から1年間の平均点数は高く、両群間に有意差がみられた。(p=0.009)

	人数	初年度点数	p値
検診早期	563	98,980	0.009
検診遅れ	95	148,629	



【考察】

- 大腸がん検診の検診受診群におけるがん医療費が、非受診群より有意に低いと推計されたことより、大腸がん検診を受診することで、**早期発見・早期治療が実現できている可能性**が示唆された。
- 大腸がん検診で陽性判定後に速やかに精検受診した精検早期群におけるがん医療費が、精検遅れ群より有意に低いと推計されたことで、精検早期群では、**比較的軽度な状態で治療を開始し、その後の治療内容や予後に影響があった可能性**が示唆された。

- 今後、がん患者及び精検受診者の特定手法の精緻化をはかり、本研究の成果を用いたがん検診受診及び精検早期受診に向けた受診勧奨を行いたい。また、大腸がん以外のがん検診でも同様の検討を行いたい。

